

明野小学校学校だより

あけの

伊勢市立明野小学校

令和2年9月17日

発行人 岡村 昭

授業再開から3週間がすぎました



「だれも経験したことのない」8月の授業を10日間行いました。子どもたちは、暑い日差しの中でも熱中症対策をとりながら登下校し、学習を進めました。そして9月、例年でしたら運動会の練習が続く毎日…という月ですが、今年は見直した年間計画に沿って学習を進める日々となっています。校内では子どもたちの元気な声が響いています。学校は子どもたちの元気な声があってこそ…とうれしい気持ちになりますが、「大声を出さない」という感染防止対策も徹底しなくてはいけないので、悩ましいところです。

「学校の新しい生活様式」についての衛生管理マニュアルも Ver.4 となりました。改訂された内容を読みながら、秋の諸行事を計画・実施していかなくてはなりません。9/3には、すぐメールにて運動会の概要をお知らせしました。感染防止のため3部交代制で子どもたちの競技・演技を見ていただくという計画です。近づきましたら、詳しいご案内をさせていただきます。保護者の皆様には何かとご不便をおかけすることになるかと思いますが、どうかご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。他の行事についても具体的な計画が整い次第、お知らせしますので、もうしばらくお時間をください。

夏休み前集会で、子どもたちに「学校はできることをふやすところ」という話をしました。この後、だんだんと秋の訪れを感じるようになっていくと思いますが、明野小の子どもたちもより一層「できること」を増やししながら、「実りの多い」前期のまとめをしていってほしいと思います。

稲刈り~~5年生の活動から~~

5/11に先生方で植えた稲が実りの時を迎え、9/11に稲刈りが行われました。この日は、感染防止対策をしながら5年生全員で取り組みました。かまで稲を刈り、束ねて結び、人力で動かす機械を使って脱穀をしました。たんぼの泥やいねのチクチクした感じ、カメムシ(?)のにおい…等々、苦労したところもありましたが、貴重な体験となりました。



英語の授業

本年度は、英語専科教諭の野村恵子先生に3・4年生の外国語活動の授業をしていただいています。年度初めは、新型コロナウイルス感染防止のため、「しっかり聞く」活動を中心に学習を進めていきましたが、今は感染防止対策を取りながら、少しずつ発声もしています。繰り返し英語を話すことで、表現できる内容も増えています。



先生たちも英語研修

8/6には、野村先生を講師に招き、教職員向け外国語教育研修を行いました。外国語活動や外国語科の目標について、指導方法や評価の方法について等、わかりやすく教えていただきました。後半には、指導者が授業で使う Classroom English を学びました。



8月に文部科学大臣よりメッセージが出されました。文部科学省のホームページからもご覧いただけます。「保護者や地域の皆様へ」の内容は以下の通りです。ぜひお読みください。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月 文部科学大臣 萩生田 光一